



1st community わたらせ “だより”

発行 古河第一地区コミュニティわたらせ
広報部会
2022.12.1
問い合わせ



出前講座で人も地域も グレードアップ

11月は健康福祉・防災安全の二つの部会が第一地区の市民の皆様を集め、それぞれに出前講座を開始いたしました。

11月8日 健康福祉部会

「高齢者のためのいきいき健康教室
～元気なお口で目指せ健康長寿～」

健康長寿を目指し、「歯」の大切さ、「歯」の磨き方など細かにご指導いただきました。



11月13日 防災安全部会 「災害に日頃から備えるために」

水害から「命」を守るためにハザードマップを確認し、いざという時の心構えを学び、避難までのタイムラインを作成しました。



第1地区コミュニティ自治会紹介

part10 田町 part11 三神町 part12 天神町



隆岩寺・吞龍堂

田町



福寿稲荷神社

この田町境界は周辺より少し低地になっています。江戸時代は低湿地で、田圃のようだったことに由来し、田町という町名になったとされています。

田町には、文禄4年(1595年)古河城主・小笠原秀政が正室の父・松平信康を弔うために開基した浄土宗の隆岩寺があります。この境内にある吞龍堂は大正14年に太田市・大光院の吞龍様を勧請したもので、子育て吞龍とも呼ばれ、子供の無事成長を多くの人たちが祈願しております。

また隆岩寺の西側には福寿稲荷神社があります。天正年間(1573~1579年)創建と伝わり、明治8年ごろまでは隆岩寺の守護神でありました。現在は古河七福神めぐりの一つで、毎年多くの人たちがお参りに訪れております。

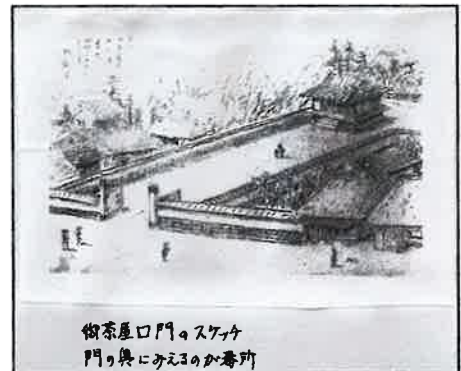
三神町

三神町の町名は明治時代にはいつからみられます。町名の由来は近隣に三つの神社、すなわち三神町の御茶屋口稲荷と大工町の恵比寿神社、古河城諏訪曲輪(出城)の諏訪神社(北新町に移転)とされています。

江戸時代は日光街道の御茶屋口から西に入った突き当りに御茶屋口番所という東向き瓦屋根の立派な建物があり、弓・鉄砲などが飾られていました。格式の高い大名が通行するときは、古河藩の重臣が式台に整列して、相互に挨拶を取りかわしました。

江戸時代初期の将軍の日光社参では、現在の三神町中央部にお茶屋(御殿)が設けられ、ここに将軍一行が宿泊しました。

のちの日光社参では御茶屋口から諏訪曲輪(出城=歴史博物館)の北側、現在の第一小学校グラウンドを通り御成門より二の丸御殿に進み、ここに一時泊りました。



御茶屋口門のスケッチ
門の奥にみえるのが番所

天神町



天神町由来記

古河藩主第四代の奥平忠昌は、元和五年(1619年)下野宇都宮から移封となり十一万石の城主となりました。翌年には家中や町方の屋敷割が行われ、この時に天神町の街並みが形成されました。

江戸時代、この一角には薬王山地福院という寺院がありました。天満宮は地福院の六代住職・宥伝が創建したとも伝わります。地福院は天満宮の別当地でした。その後、明治初期に地福院は廃寺となり、今は天満宮だけが残っています。

天満宮から町名のついた天神町には、数十年前(昭和の時代まで)まで、料亭・小料理屋等の飲食店が多く立ち並び、横山町・紺屋町と一緒に古河の西口で大変賑わった一画でした。

自治会の紹介は順不同です。
お時間のある時、是非散策してみたいかですか。
今まで気づかなかった新たな発見があるかもしれませんよ。